令和５年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》

読書活動への扉を開く！

Ｎｏ89　　桑村小学校令和６年２月５日　文責　渡邊

「幸せな学校」づくりを目指して!!

中央教育審議会「次期教育振興基本計画について(答申)」の資料を参考に、本校におけるウェルビーイングを考えてみたいと思います。

はじめに、「日本発・日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」について、資料をもとに確認してみましょう。

> 日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会的貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根ざした「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められる。(※中央教育審議会「次期教育振興基本計画について(答申)」の資料より)

上記から、自己肯定感や自己実現などの個人の獲得的要素と協調性などの協調的要素を一体的に向上させていくことが求められます。具体的な指標としては、

> ○自分にはよいところがある。○将来の夢や目標をもっている。○授業の内容が分かる。○勉強が好き。○自分の幸福感。○友人関係の満足度。○自分と違う意見について考えるのは楽しい。○人が困っているときは進んで助けている。○学級をよくするために互いの意見の良さを生かして解決方法を決める。○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。○先生は自分のよいところを認めてくれる。○困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。(※中央教育審議会「次期教育振興基本計画について(答申)」の資料より)

が挙げられていました。

さて、本校児童の「学校が楽しい」という意識を学校評価の結果から見ていきたいと思います。

> 令和４年度前期「学校が楽しい」９８．７％(Ａとても楽しい、Ｂ楽しいの合計)
> 令和４年度後期「学校が楽しい」９３．７％(Ａとても楽しい、Ｂ楽しいの合計)
> 令和５年度前期「学校が楽しい」８１．８％(Ａとても楽しい、Ｂ楽しいの合計)
> 令和５年度後期「学校が楽しい」７３．９％(Ａとても楽しい、Ｂ楽しいの合計)
> ※桑村小学校「学校評価」児童の意識調査より

「幸せな学校」を目指して、今年度も学校体制で取り組んできましたが、子供たちの何人かは「学校は楽しくない」と回答しています。そこで、対話を通してその改善を図りたいと考え、教務主任と養護教諭がチームとなり、対象児童と教育相談を行い、その原因の解明に努めました。

今回、その対話を通して見えてきたことは、勉強や対人関係のことで不安を抱えている子が多いということです。

そこで、個人のウェルビーイングを支える学力と協調的要素の非認知能力の双方を今後もバランスよく育成していきたいと考えます。

学校に通う桑っ子たち全員が「幸せな学校」と感じられる桑村小学校を個人の幸せとともに、個人を取り巻く学校や家庭、地域社会においても感じられるように取り組んでいきますのでご理解、ご協力をよろしくお願いします。

【図書を借りる桑っ子】